

中高年の生活に関する継続調査票(2)
 - ICF分類と調査項目との対応 -

<凡例>

- (家)(健)(就)(資)(社)(住)(配)は調査票の区分(楕円でかこって表示)。
 それぞれ家族(問1-6)、健康(問7-17)、就業(問18-29)、資格、能力開発等(問30-31)、社会活動等(問32-33)、住居・家計(問34-38)、配偶者(問39-42)を示す。
- 「環境因子・個人因子、等」の欄には、調査票の項目が活動または参加のICF項目に対応する場合に關係する因子を示している。<環>はICFの環境因子、<個>は同じく個人因子、<主>は生活機能の主観的側面、<三>は第三者の生活機能を示す。
- *印は複数の項目に關係するもの。右向き矢印(→)の先にそれ以外の項目を示す。
- 左向き矢印(←)は關係の深い参加項目を示す。

健康状態			
(健)7 [現在の健康状態はいかがですか?] * (健)8 [6 疾患の有・無、通院や服薬、病状の変化、最近1年間の入院] →p570 (健)9 [最近1年間の入院(原因8以外)] * (健)10 [主観、情動、神経症状] →心身機能 b126、b130 →<主> (健)11-2 [日常生活活動の困難の理由] (疾患名中心、心身機能は視覚障害のみ) * (健)16 [健診受診状況] →p570 * (健)補 16-1 [健診の結果] →p570 * (健)補 16-2 [結果への対応] →p570 * (健)17 [健康維持のための心がけ] →p570			
活動		参加	環境因子・個人因子、等
5章セルフケア			
(健)補 11-1-⑤ [手や顔を洗う]-a5100 (困難の有無、介助必要性のみ)	a510.	自分の身体を洗う	
(健)補 11-1-⑧ [入浴]-a5101 (困難の有無、介助必要性のみ)	a520.	身体各部の手入れ	
(健)補 11-1-⑦ [排せつ] (困難の有無、介助必要性のみ)	a530.	排泄	

(健) 補 11-1-④ [衣服の着脱] (困難の有無、介助必要性のみ)	a540.	更衣			
(健) 補 11-1-⑥ [食事] (困難の有無、介助必要性のみ)	a550.	食べる			
* (健) 13 [飲酒頻度、量] → a570	a560.	飲む			
* (健) 13 → a560 * (健) 14 [喫煙・本数] → a598 * (健) 15 [運動] (負荷 3 段階毎に頻度) → a920	a570.	健康に注意する	p570.	* (健) 8 [6 疾患の通院や服薬、病状の変化最近 1 年間の入院] → <健> * (健) 12 [治療・健康維持のための支出] → p860 * (健) 16 [健診受診状況]、補 1 [結果]、補 2 [結果への対応] → <健> * (健) 17 [健康維持のための心がけ] → <健>	
* (健) 14 → a570	a598.	その他			
6 章家庭生活					
必需品の入手					
	a610.	住居の入手	p610.	* (住) 34 [住居] 住居の変化 (転居; 増改築) → 870	<環> (住) 34 [住居の形態] <環> (住) 補 34-1 [住居の広さ] <主> (住) 補 34-2 [住居の広さへの満足度]
* (健) 補 11-1-⑩ [買い物したものの持ち運び] (困難の有無、介助必要性のみ) → a430	a620.	物品とサービスの入手	p620.	* (配) 42 [配偶者との過ごし方] → p770、p850、p855、p910、p920	
(社) 32-⑥ [家事]	家事				
	a630.	調理	p630.		
	a640.	調理以外の家事	p640.		
家庭用品の管理および他者への援助					
	a650.	家庭用品の管理	p650.		
	a660.	他者への援助	p660.	* (家) 5 [介護・育児] → p760 * (家) 補 5-1 [介護・育児の対象との関係・介護時間] → p760 * (家) 6 [非同居者への経済的支援] (頻度、金額) → p760、860、898 * (社) 32-② [社会参加活動: 地域行事、ボランティア、高齢者支援等] → p855、p910 (社) 32-⑦ [身内の介護] (社) 32-⑧ [自分の孫や子供の世話] * (社) 33-④ [子育て支援・教育・文化: 子ども会の役員など] → p910 (社) 33-⑤ [高齢者支援: 家事支援・移送など]	<環> 対象となる他者 (p660 の全てに関係) ←<主> 満足度 ←<主> 満足度 ←<主> 満足度 ←<主> 継続の意志 ←<主> 継続の意志

7章対人関係				
一般的な対人関係				
	a710.	基本的な対人関係		
	a720.	複雑な対人関係		
特定の対人関係				
	a730.	よく知らない人との関係	p730.	
	a740.	公的な関係	p740.	←* <主> 仕事についての満足度 (職場の人間関係) →p850
	a750.	非公式な社会的関係	p750.	(家) 3 [配偶者以外と同居] -p7503 : 同居者との非公式な関係 (社) 32-③ [近所づきあい] (有無) -p7501 : 隣人との非公式な関係 (社) 32-④ [友達づきあい] (有無) -p7500 : 友人との非公式な関係 ←補 3-1-収入の有無 ←<主> 満足度 ←<主> 満足度
	a760.	家族関係	p760.	* (家) 5 →p660 * (家) 補 5-1 →p660 * (家) 6 →p660, 860, 899 ←<三> 経済的支援の必要性 <環境> (家) 3 [同居者] →補 3-1 [年齢・収入の有無] <環> (家) 4, 補 4-1 [非同居家族] →1年以内の変化
	a770.	親密な関係	p770.	補 2-1 [1年以内の変化] * (配) 42 →p620, p850, p855, p910, p920 <環> (家) 2 [配偶者] <環> (配) 39, 40, 41, 補 41-1, 補 41-2 [※配偶者について: 最終卒業学校、健康状態、収入源、収入額]
8章主要な生活領域 (教育・仕事・経済)				
教育				
	a810.	非公式な教育※	p810.	* (資) 31-1 [勤め先・公共機関・民間機関等での研修] →p825
	a815.	就学前教育※	p815.	
	a820.	学校教育※	p820.	<個> (家) 1 [最終学歴]
	a825.	職業訓練※	p825.	* (資) 31 [仕事のための能力開発、自己啓発] (有無・方法) →p810, p830, p845
	a830.	高等教育※	p830.	* (資) 31 →p825, 845
仕事と雇用				
	a840.	見習研修 (職業準備) ※	p840.	<環> (就) 22 [会社の従業員数] <個> (就) 23 [就職時期]
	a845.	仕事の獲得・維持・終了	p845.	(就) 21 [通勤時間のみ] (就) 補 28-2 : 職探し・開業準備 * (資) 31 →p810, p825, 830 (資) 30 [仕事のための免許・資格の取得] <最近1年間> * <環> (就) 24 [定年の有無・年齢] * <主> (就) 25 [仕事について満足度] (能力活用、職場の人

	a850.	報酬を伴う仕事	p850.	(就) 18 [就労有無] (就) 19 [仕事種類、勤務形態] (就) 20 [仕事内容] (就) 21 [就業日数、就業時間、通勤時間] * (配) 42→p620、p770、p855、p910、p920	間関係、労働条件) →p740 <環> (就) 26 [勤務先の制度： (再就職の斡旋、再雇用制度、勤務延長制度) (有無)] <環> (就) 27 [仕事の後継者有無 (自営業者のみ)] <個> (就) 補 27-1 [今後の事業予定] <主> (就) 28 [職探しの希望の有無]、補 28-1 [希望職種] <主> (就) 補 28-3 [希望あるも職探し無の理由] <個> (就) 29、補 29-1 [過去1年間にやめた仕事] <個> (就) 29-p8452 : 退職 (最近1年間)、有無、仕事内容、理由 ←<主>満足度 ←<主>満足度
	a855.	無報酬の仕事	p855.	* (社) 32-②→p660、p910 * (社) 32-⑤ [無報酬の仕事 : 民生委員、保護司、PTA 役員等] →p910 * (配) 42→p620、p770、p850、p910、p920	
経済生活					
	a860.	基本的な経済的取引	p860.	* (家) 6→p660、p760、p898 * (健) 12 [治療・健康維持のための支出] →p570	
	a865.	複雑な経済的取引	p865.		
	a870.	経済的自給	p870.	* (住) 34 [住居] (住宅ローン) →610 (住) 35 [収入] 補 1-収入源、補 2-収入額 (住) 36 [家計支出額] (住) 37 [借入金額]	<環> (住) 35-1 [資産収入] : e165 <環> (住) 38 [預貯金] : e165
	a898.	その他		[他者への経済的援助] * (家) 6→p660、p760、p860	
9章コミュニティライフ・社会生活・市民生活					
	a910.	コミュニティライフ	p910.	* (社) 32-②→p660、p855 * (社) 32-⑤→p9101→p855 (社) 33-③ [地域行事 : 町内会の催しなど] * (社) 33-④→p660 (社) 33-⑥ [その他の社会参加活動] (社) 33-①~⑥ [町内会・自治会] [NPO・公益法人等] * (配) 42→p620、p770、p850、p855、p920	<主> (社) 33-①~⑥-今後の継続の意志 ←<主>満足度

* (健) 15 (負荷 3 段階毎に頻度) →a570	a920.	レクリエーションとレジャー	p920.	(社) 32-①[趣味・教養: 囲碁、盆栽、旅行など] (社) 33-①[趣味・教養] (活動の方法、仲間の種類、活動地域) (社) 33-②[スポーツ・健康] * (配) 42→p620、p770、p850、p855、p910
	a930.	宗教とスピリチュアリティ	p930.	
	a940.	人権	p940.	
	a950.	政治活動と市民権	p950.	
3章コミュニケーション				
コミュニケーションの理解				
	a310.	話し言葉の理解		
	a315.	非言語的メッセージの理解		
	a320.	手話によるメッセージの理解		
	a325.	書き言葉によるメッセージの理解		
コミュニケーションの表出				
	a330.	話す		
	a335.	非言語的メッセージの表出		
	a340.	手話によるメッセージの表出		
	a345.	書き言葉によるメッセージの表出		
会話並びにコミュニケーション用具および技法の利用				
	a350.	会話		
	a355.	ディスカッション		
	a360.	コミュニケーション用具および技法の利用		
4章運動・移動				
姿勢の変換と保持				
(健) 補 11-1-②[ベッドや床からの起き上がり]-a4100 横たわること (困難の有無、介助必要性のみ) (健) 補 11-1-③[椅子からの立ち座り] (困難の有無、介助必要性のみ)	a410.	基本的な姿勢の変換		
	a415.	姿勢の保持		
	a420.	乗り移り (移乗)		
物の運搬・移動・操作				
* (健) 補 11-1-⑩→a620	a430.	持ち上げることと運ぶこと		
	a435.	下肢で物を動かす		
	a440.	細かな手の使用		
	a445.	手と腕の使用		

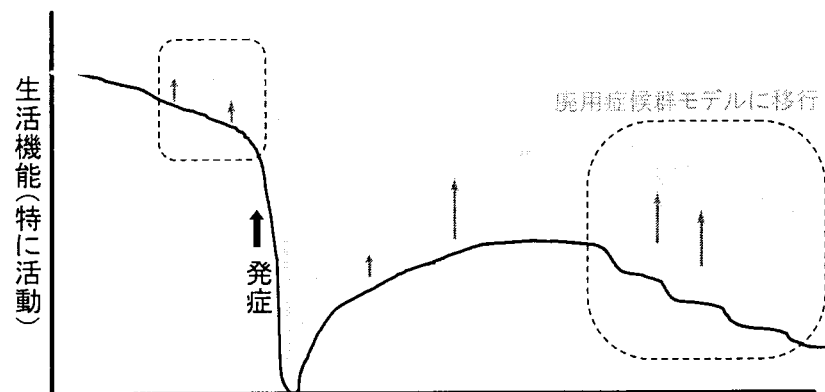
歩行と移動			
(健)補 11-1-①[歩く] (困難の有無、介助必要性のみ)	a450.	歩行	
(健)補 11-1-⑨ [階段昇降]-a4551: 登り降りすること (困難の有無、介助必要性のみ)	a455.	移動	
	a460.	さまざまな場所での移動	
	a465.	用具を用いての移動	
交通機関や手段を利用した移動			
	a470.	交通機関や手段の利用	
	a475.	運転や操作	
1章学習と知識の応用			
目的をもった感覚的経験			
	a110.	注意して視る	
	a115.	注意して聞く	
	a120.	その他の目的のある感覚	
基礎的学習			
	a130.	模倣	
	a135.	反復	
	a140.	読むことの学習	
	a145.	書くことの学習	
	a150.	計算の学習	
	a155.	技能の習得	
知識の応用			
	a160.	注意を集中する	
	a163.	思考	
	a166.	読む	
	a170.	書く	
	a172.	計算	
	a175.	問題解決	
	a177.	意思決定	
2章一般的な課題と要求			
	a210.	単一課題の遂行	
	a220.	複数課題の遂行	
	a230.	日課の実行(遂行)	
	a240.	ストレスとその他の心理的要求への対処	

※これがついた項目は中分類どまりで小分類なし※※8 (その他の特定の)、9 (詳細不明)の項目は略してある

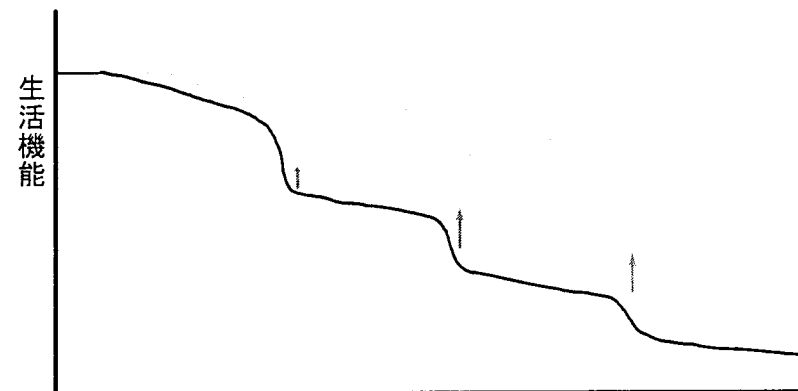
生活機能低下の経過

— 2つのモデル* —

脳卒中モデル (脳卒中・骨折など)



廃用症候群モデル (廃用症候群、各種慢性疾患、変形性関節症など)



廃用症候群モデル

従来は「年だから」「病気だから」低下していくのは当然で、不自由になったら介護のみと考えがち

⇒ 技術・システムの向上で、高い生活機能を保つことは可能

○ 現在の課題：対応不十分（一部の症候、疾患群中心）

⇒ 本質的対応（生活の活発化）、国民への啓発

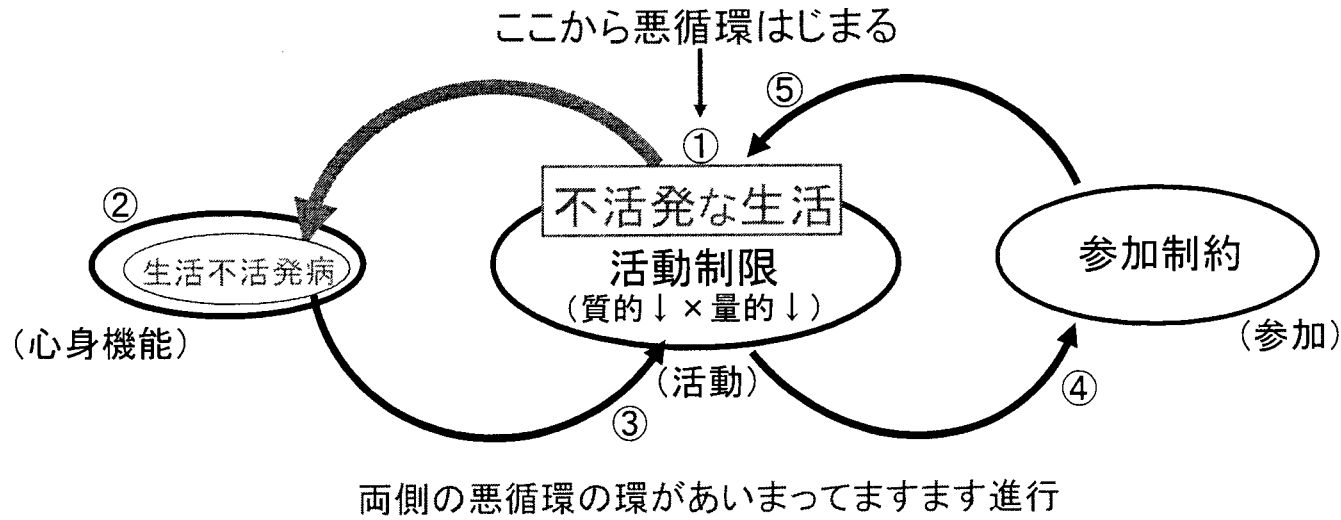
○ 脳卒中モデルにも廃用症候群モデルの時期がある

⇒ 廃用症候群モデルとしての対応必要（“維持期”リハではなく）

※この他に認知症モデルあり

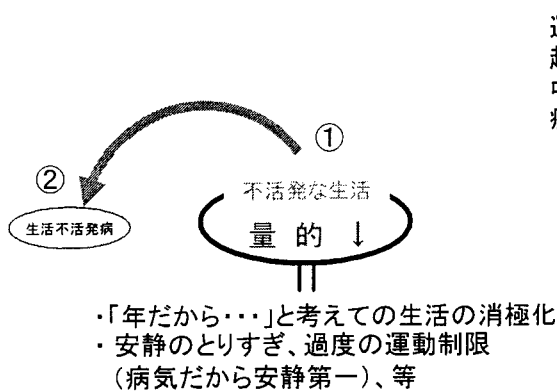
註：左右の図とも矢印（↑）は今後の介護（「よくし助ける介護」）・リハビリテーション（狭義ではなく広義）等の発展、一般国民の認識の向上により、生活機能の経過（現状：黒線）を大きく向上できること（青線）を示す

「生活不活発病」と「生活機能低下の悪循環」

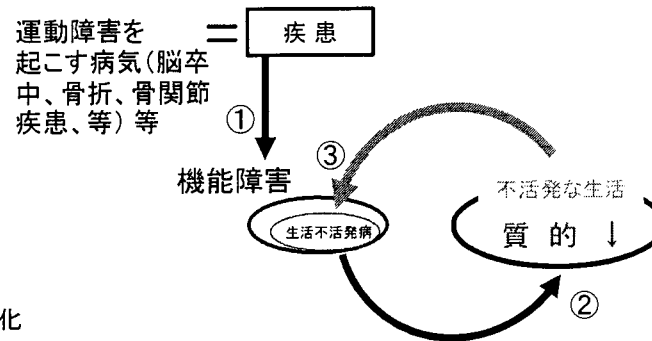


— 生活不活発病発生の3つのタイプ —

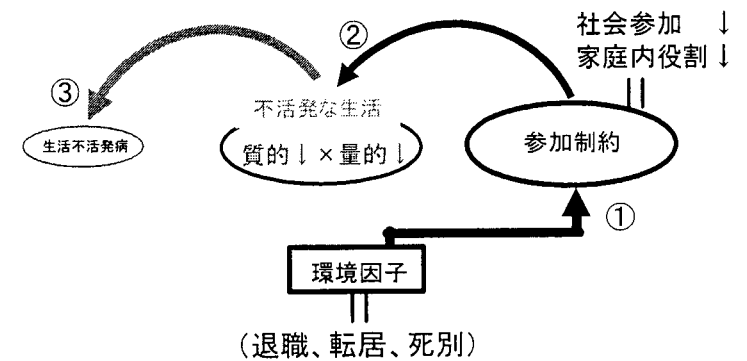
○「活動」の「量」的減少タイプ



○「活動」の「質」的低下タイプ

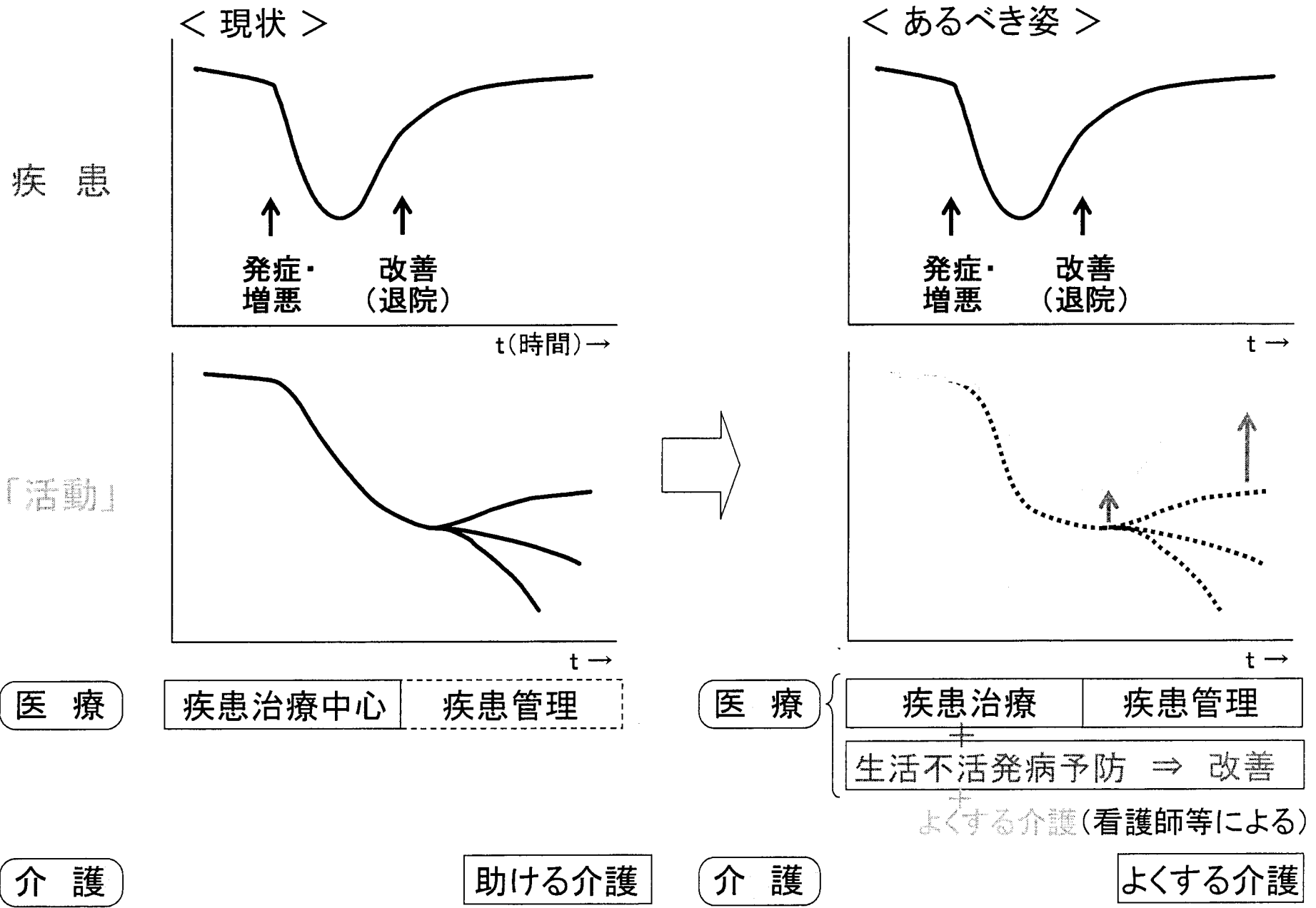


○「参加」低下タイプ

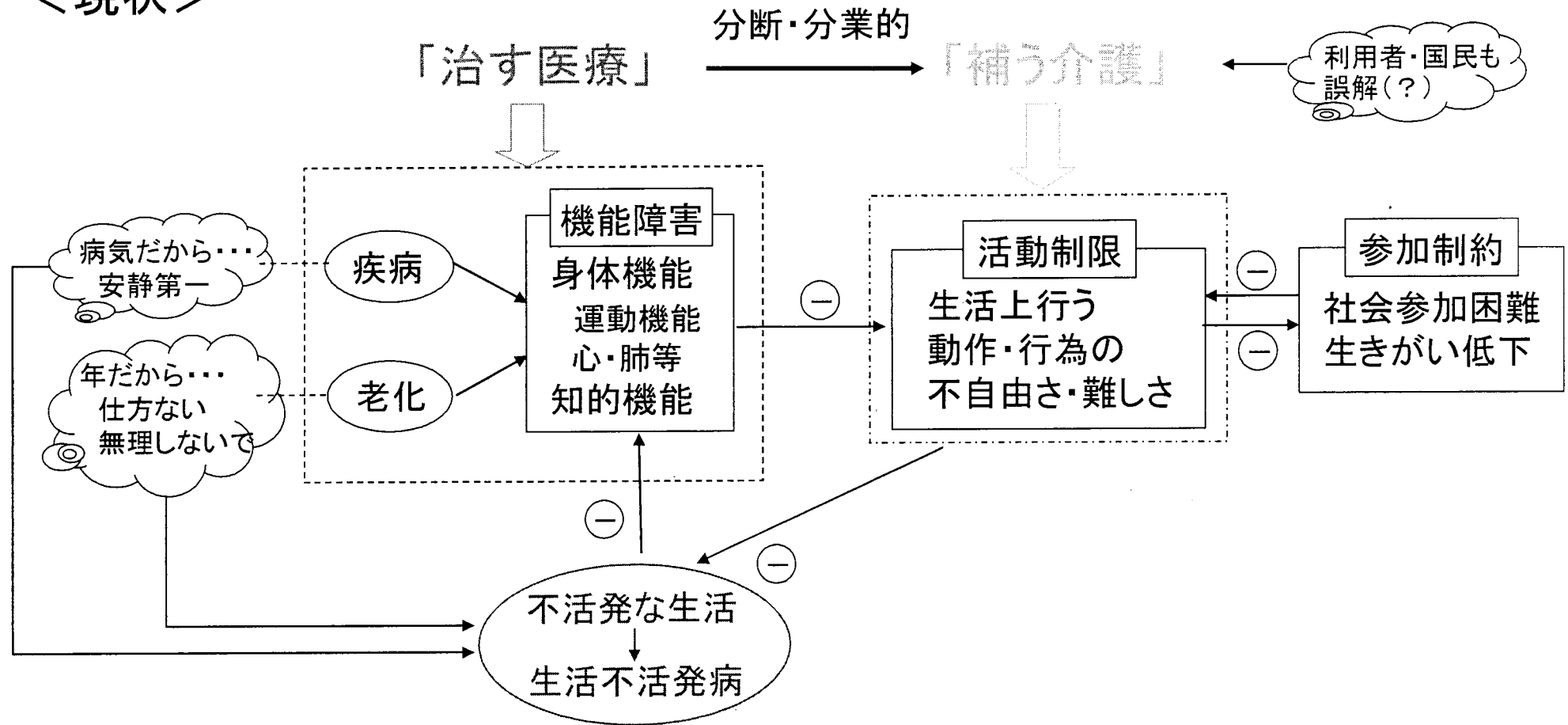


病気の発症・増悪の時の医療と介護の連携

— 生活不活発病予防・改善と「活動」低下への早急な対応 —



<現状>



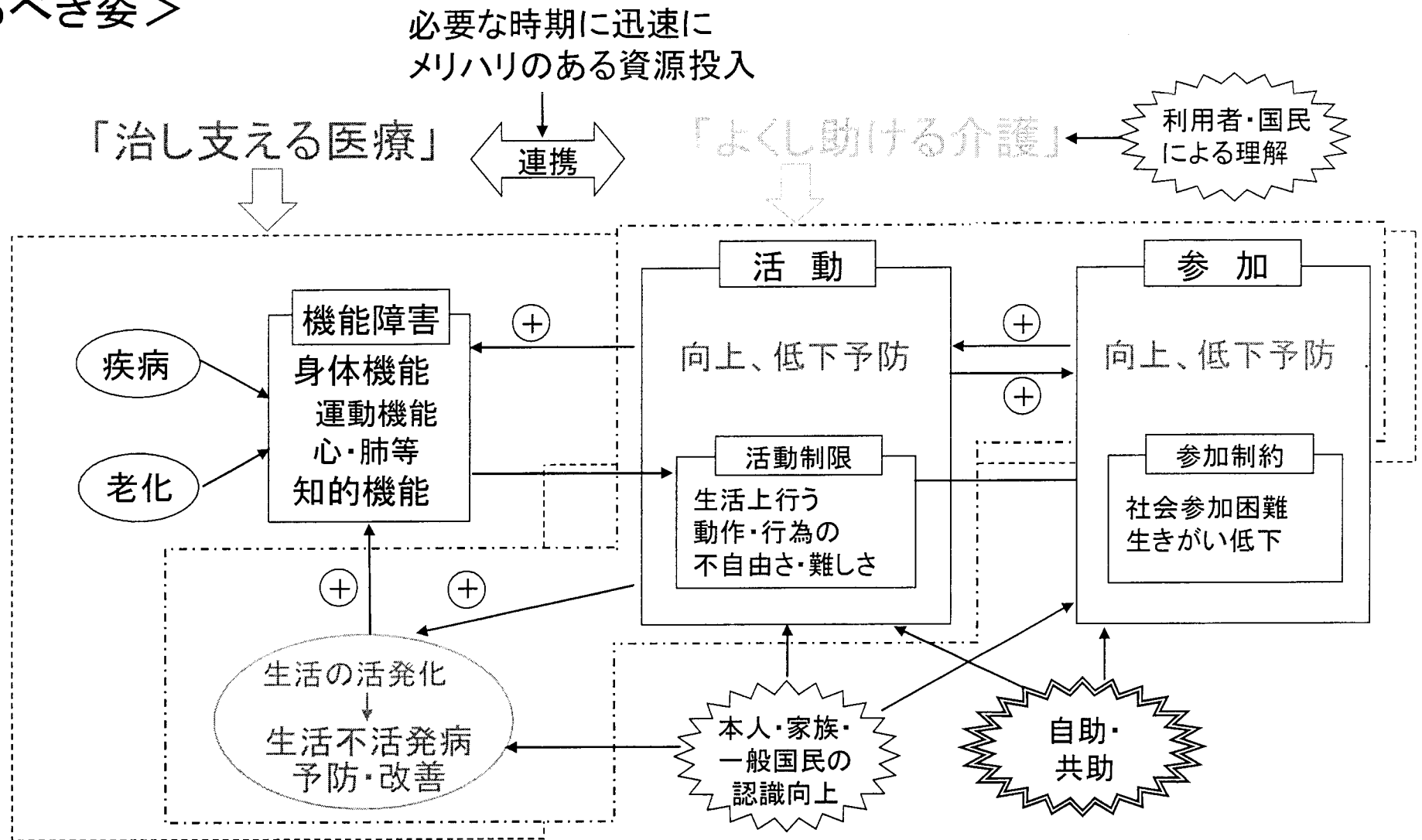
※活動制限：人が家庭・社会で生活している中で行っている目的をもった一つひとつの動作・行為（活動）の困難。

※参加制約：人や社会との関係や役割を持ったり、楽しみや権利を実現すること（参加）の困難。

※生活機能：人が「生きる」ことの全体像、「心身機能・構造」「活動」「参加」の3つのレベルを統合したもの。

医療と介護：分断から共働へ（2）

<あるべき姿>

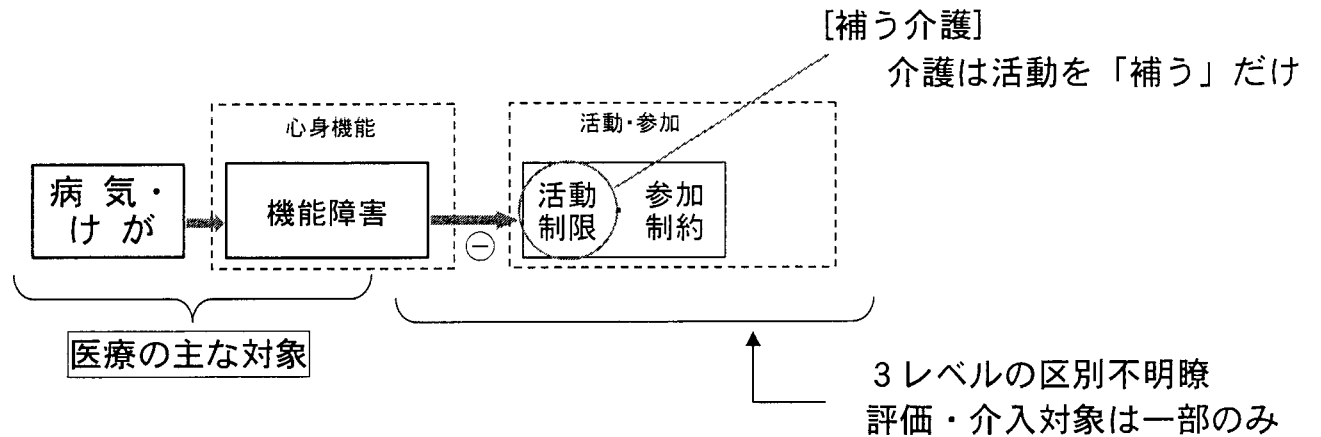


※活動：人が家庭・社会で生活している中で行っている目的をもった一つひとつの動作・行為。すなわち、「参加」を実現するためのあらゆる動作・行為。
※参加：人や社会との関係や役割を持ったり、楽しみや権利を実現すること。

医学モデルから統合モデルへ

<医学モデル>

- ・原因：病気が全てを決定する一方向モデル
マイナスモデル
(矢印はマイナス面発生の因果関係)
- ・解決：問題発生の因果関係を過大視
機能障害が改善しないと活動・参加の向上はない(活動・参加への対応は補完のみ)

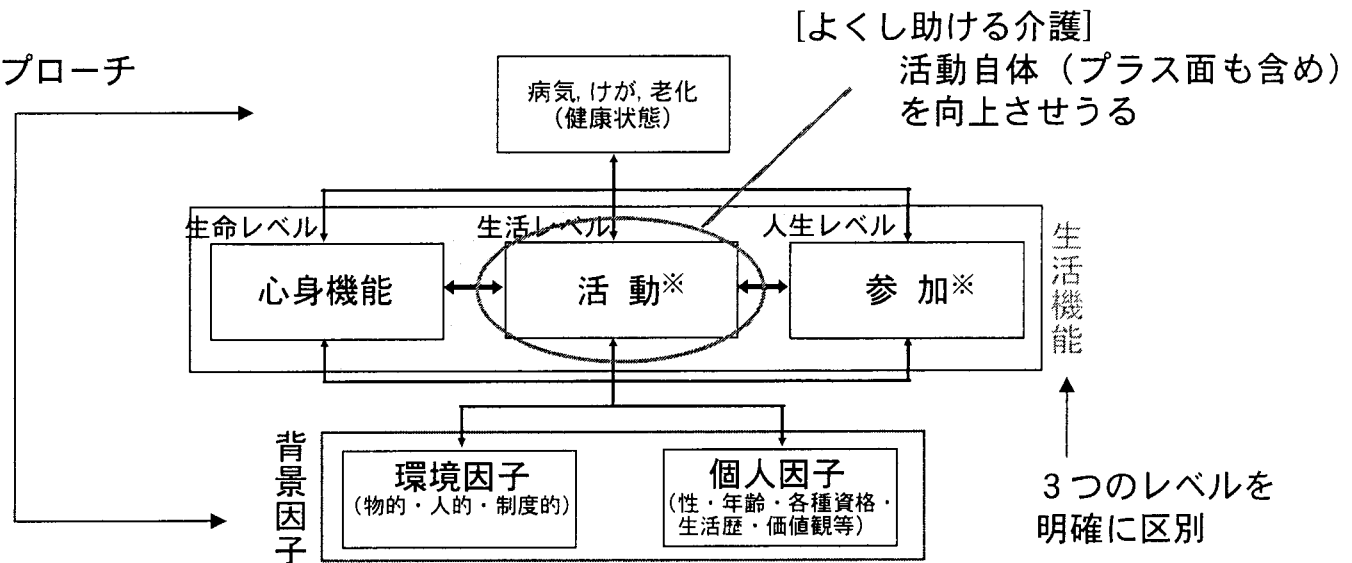


<統合モデル>

生活機能モデル

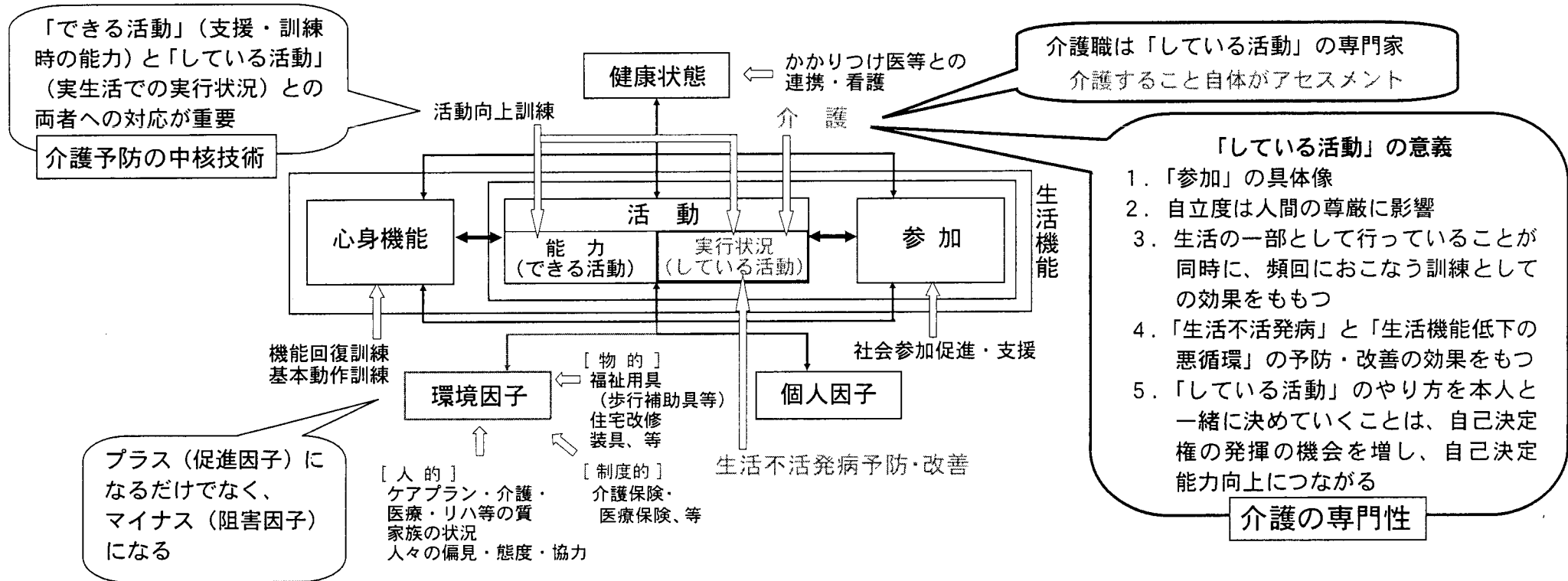
：分析にもとづいた統合に立つ総合的アプローチ

- ・原因：病気だけでなく、背景因子も重視。
生活機能の3レベル間でも影響しあう
- ・解決：
 - ・生活機能の各レベルは相対的な独立性をもつ。そのため機能障害が改善しなくても活動自体を改善させることができる。
 - ・様々な矢印は互いに影響しあう



(ICF、WHO、2001)

統合モデルに立った介護の位置づけ



○ 各種介護 (保健) サービス・自助・共助は「環境因子」

- ・生活機能の3つのレベルのどこのどの項目に影響しているかをみる。効果判定も同様に
- ・その質を問われる (専門性でもある)
- ・他のより良いサービスはないか? 連携すべきものがないか、をみる

[例]: バリアフリー: 一人ひとりの一つひとつの活動毎でバリア (阻害因子) にもなり、バリアフリー (促進因子) にもなる (車いす使用者に適することだけがバリアフリーではない。やっと立って歩ける人にはマイナスになることが少なくない。)

○ 介護予防は機能障害中心ではなく、生活不活発病予防と活動向上訓練による生活機能向上!